

平成30年度 介護ロボット導入効果

| 番号  | 法人名                                   | 導入機器種類及び名称                          | 導入台数 | 導入効果  | 活用課題  |
|-----|---------------------------------------|-------------------------------------|------|---|---|
| 1   | 社会福祉法人てまり<br>ケアハウスメディア<br>ウンアベニュー     | 見守り機器<br>みと〜ねII<br>(見守り人感センサー)      | 2台   | ・認知症の徘徊で施設から出て行ってしまいう入居者を感知（出入口2か所に設置）<br>・以前は、センサーマットで対応していたが、反応しないことにより入居者の安全確保に対する心理的負担とマット管理の労力があつたが、ロボットにより管理の必要がなくなった。      | 異常があれば施設長のスマホに通知連絡メールが来るようになっている。<br>施設にもアプリに対応できる携帯端末を導入できると良いと感じた。                      |
| 2   | 社会福祉法人睦会<br>特別養護老人ホーム<br>やすらぎの園       | 見守り機器<br>見守りケアシステムM2<br>(センサー付きベッド) | 3台   | ・センサーベッドに変更したことにより、入所者がマットに引掛かり転倒するリスクが解消<br>・夜勤者はセンサー感知により早期訪室が可能。導入前は尻餅等、入所者のケガに関する報告があつたが、導入後はなくなった。                           | ベッドのコンセントを抜いた後、再度電源を入れるとリモコンの設定がリセットされてしまう  |
| 3   | 社会福祉法人佐久福<br>寿園<br>特別養護老人ホーム<br>佐久福寿園 | 移乗支援<br>Hug L-01<br>(移乗サポートロボット)    | 3台   | ・導入前は職員2名で行っていたベッドから車いすの移乗が、職員1人で即座に対応可能となった<br>・移乗1回あたり業務短縮効果5分×1日4回×2人＝業務時間40分短縮（Hug1台につき）<br>・パート職員の少ない時間帯に特に有効                | Hugとゲストの体のサイズがあわず、その方にあつた介助方法を探るのに苦労した<br>介助方法のバラツキをなくすため、介助手順書を個別に作成し可視化することでケアの統一を図っている |
| 4   | 株式会社たまゆら<br>ショートステイたま<br>ゆら           | 見守り機器<br>ネオスケア<br>(見守りセンサー)         | 5台   | ・従来夜勤者は2時間毎の定期巡回、見守り以外でも常に物音に気を使い、注意を払っていなければならなかったが、ネオスケア設置後はタブレットを手元に置いて、記録等に時間を割けるようになった。サーバーPCにデータが残っているため事故原因の究明にも利用することが出来る | 赤外線センサーのため、視界がぼんやりとしてはっきり確認できないときがある。また視界がベッド周りだけのため室内全体は見えない                             |
| 4法人 |                                       |                                     |      |   |   |